

資料1 第3期伊勢市環境基本計画 施策推進確認シート

基本目標1 低炭素で地球にやさしい社会の構築

評価 A:実施できた  
B:概ね実施できた  
C:ほとんど実施できなかった  
D:実施していない

(1) 温室効果ガスの排出抑制

施策	主な取組	担当課	令和3年度					取り組みの成果や課題、それらを踏まえた次年度の取組	令和4年度		備考	
			事業名	予算額 (千円)	取組実績	決算 見込額 (千円)	評価		事業名	当初 予算額 (千円)		
①地域と調和した再生可能エネルギーの導入促進	公共施設への太陽光発電設備等の再生可能エネルギー機器の導入	学校統合推進室	二見地区小中学校整備事業	127,050	二見浦小学校・二見中学校の新設に伴い、太陽光発電設備を設置する。令和3年度から令和4年度の継続事業として、事業着手した。	46,310	B	二見浦小学校・二見中学校の新設に伴い、太陽光発電を設置する。令和3年度から令和4年度の継続事業として、令和5年1月完成を目指し、工事を進める。	二見地区小中学校整備事業	246,683	予算額等は工事請負費（電気設備工事）の総額	
	住宅等の太陽光発電設備の設置を促進	環境課	-	-	商業施設で実施したパネル展において太陽光発電設備のPRを行った。	-	B	令和3年度は新型コロナウイルスの影響によりイベントで啓発する機会が少なかったが、脱炭素社会の実現が社会的な課題となっていることから、次年度はPRの機会を増やすことで普及促進を図っていく。	-	-		
	関係法令及び三重県太陽光発電施設の適正導入に係るガイドライン等に基づく地域と調和した適正な再生可能エネルギーの導入	環境課	-	-	国・県・市が定めるガイドライン等に基づき、環境・景観に配慮し、地域と調和した適正な太陽光発電の導入を図るための指導を行った。	-	A	国が2050年カーボンニュートラルを表明し、太陽光発電施設導入の増加が見込まれるため、引き続き、国・県・市が定めるガイドライン等に基づき、環境・景観に配慮し、地域と調和した適正な太陽光発電の導入を図る。	-	-		
		ごみ減量課	資源ごみ売却収入	1	回収したてんぷら油について、市内公衆浴場での焚き付け材に代わる燃料として利用を図った。 (R3実績：21,960ℓ)	1	A	【成果や課題】 焚き付け材として再利用するため、回収する油の品質に左右されず回収を行うことができた。 【次年度の取組】 ・てんぷら油の回収について、市民へ向けた資源化促進の啓発を行う。 ・回収したてんぷら油について、市内公衆浴場での焚き付け材に代わる燃料として利用を図る。	資源ごみ売却収入	1		
②環境負荷が少ないライフスタイルや事業活動への転換促進	公共施設における省エネルギー効果の高い設備等への更新	維持課	・道路維持補修経費 ・交通安全施設整備事業 ・交通安全施設管理経費	73,349	道路照明施設にLED球を設置及び取替を行った。	61,023	A	道路照明施設にLED球を設置及び取替を行ったことにより、維持管理費の削減及び省エネルギー化を図った。次年度以降も継続していく。	・道路維持補修経費 ・交通安全施設整備事業 ・交通安全施設管理経費	13,800		
		学校統合推進室	二見地区小中学校整備事業	127,050	二見浦小学校・二見中学校の新設に伴い、照明にLEDを導入する。令和3年度から令和4年度の継続事業として、事業着手した。	46,310	B	二見浦小学校・二見中学校の新設に伴い、令和3年度から令和4年度の継続事業として、令和5年1月完成を目指し、工事を進める。	二見地区小中学校整備事業	246,683	予算額等は工事請負費（電気設備工事）の総額	
		教育総務課	小学校整備事業 中学校整備事業	45,771 27,182	小学校4校、中学校2校の屋内運動場で照明改修工事を実施した。	29,733 16,896	A	省エネルギー効果の高いLED照明に変更した事で、電気代の削減につながることが期待される。次年度についても、体育館の照明を順次取り替えていく。	小学校整備事業 中学校整備事業	34,350 30,699		
	家電等、家庭で使われる機器の購入や買替えの機会を捉え、高効率機器への選択・転換の促進	環境課	-	-	商業施設で実施したパネル展において家電製品買い替えによるCO2削減効果を啓発した。また、5箇所の商業施設でチラシを配布する街頭啓発を実施した。	-	B	令和3年度は新型コロナウイルスの影響によりイベントで啓発する機会が少なかったが、脱炭素社会の実現が社会的な課題となっていることから、次年度はイベントで家電製品の買い替えによるCO2削減効果を啓発する機会を増やすとともに新たな啓発手法を探る。	-	-		
	電気自動車等の普及促進	環境課	-	-	商業施設で実施したパネル展において電気自動車のPRを行った。	-	B	令和3年度は新型コロナウイルスの影響によりイベントで啓発する機会が少なかったが、脱炭素社会の実現が社会的な課題となっていることから、自治体として電気自動車の導入を進めるとともに、イベント等を通じて電気自動車のPRを進める。	-	-		
	省エネルギー型のライフスタイルやビジネススタイルを促進するため、省エネに関する講習会等を開催											
	公共施設における電気、燃料、用紙等の使用量の抑制	環境課	-	-	環境管理システムを運用し、市役所本庁舎・総合支所等における電気、燃料、用紙等の使用量を抑制した。	-	B	市として率先して省エネ活動に取り組むため、環境管理システムを運用し、市役所本庁舎・総合支所等における電気、燃料、用紙等の使用量を抑制する。	-	-		
	エコドライブの普及促進	環境課	エコドライブ普及推進事業	346	エコドライブ講習会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。代わりに、パネル展示やチラシ配布により啓発を行った。	0	C	コロナ禍でも実施可能な方法を検討し、JAFとの連携により講習会を開催する。更なる普及促進を図るため、新たに事業者向けに座学講習、実践講習への派遣も行う。	エコドライブ普及推進事業	328		
	自転車の利用機会を拡大											
	みえエコ通勤デーの啓発等による公共交通の利用を促進											
③低炭素型の都市基盤づくり	「伊勢市立地適正化計画」に基づく拠点となる地域への機能集約と活性化											
	連節バスを使用したBRT（バス高速輸送システム）導入等による公共交通の定時性・速達性の確保及び利用促進	交通政策課	-	-	新型コロナウイルス感染症の流行による利用減少を考慮し臨時ダイヤを設定するなど、利用状況に合わせた柔軟なダイヤを運用することで、環境面に配慮しつつ定時制・速達性の確保による移動利便性向上を行った。	-	A	連節バスの輸送力により、一定の定時性・速達性の確保が図られた。次年度も継続運行をしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数が減少したため、さらなる利用促進を行う。	-	-	R3.4.1から本格（定期）運行の開始	

施策	主な取組	担当課	令和3年度				取り組みの成果や課題、それらを踏まえた次年度の取組	令和4年度		備考	
			事業名	予算額 (千円)	取組実績	決算見込額 (千円)		評価	事業名		当初予算額 (千円)
	鉄道、バス等の公共交通の利用促進	交通政策課	コミュニティバス運行事業	145,908	おかげバス環状線などの運行や環状線での既存の鉄道・路線バスとの「乗継割引」の実施、交通系ICカードシステムの導入による利便性向上を図り、公共交通の利用促進を行った。 【R3年度 利用者数】 おかげバス（環状線除く）55,616人 おかげバス環状線 45,294人 おかげバスデマンド（沼木デマンド含む）3,182人 【R4年3月 おかげバスの運賃収入に占めるICカード利用割合】 27.8%	130,209	A	新型コロナウイルス感染症の影響があり、公共交通の利用者が減少していることが課題。しかしながら、おかげバス環状線は、利用者数が増加傾向にあり、公共交通の利用促進に一定の効果を得たと評価する。 利用者を増やすため今後も引き続きおかげバス環状線での既存の鉄道・路線バスとの「乗継割引」を実施していくほか、交通系ICカードの利用による運賃割引も引き続き実施し、利用促進を行う。	コミュニティバス運行事業	136,674	R3.9.1から交通系ICカードシステムの利用開始
	観光交通渋滞対策の推進	交通政策課	観光交通対策特別会計	415,923	・自家用自動車への依存度が高くなっており、マイカーからよりCO2排出量の少ない公共交通機関利用へのシフトを促進した。 ・観光交通渋滞対策（パークアンドバスライド等）を進め、自動車乗車時間の減少を図り、CO2削減に寄与した。	372,010	B	令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により急遽ゴールデンウィーク観光交通渋滞対策を中止したが、年末年始は予定どおり実施した。なお、年末年始はコロナ禍で密を回避するためマイカー利用が多い状況であったが、コロナ流行前と比較しても来訪車両数は大幅に上回ることはなかった。引き続き、マイカーからCO2排出量の少ない公共交通機関利用へのシフトを促進していく。	観光交通対策事業	531,416	
	電気バスの利用促進	環境課	-	-	三重交通（株）が導入した電気バスを環境教育で利用することにより周知を図る予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。	-	D	コロナ禍でも利用可能な方法を検討し、三重交通（株）が導入した電気バスの環境教育での利用により周知を図るとともに、イベント時におけるPRも実施する。	-	-	

## (2) 気候変動への適応

施策	主な取組	担当課	令和3年度				取り組みの成果や課題、それらを踏まえた次年度の取組	令和4年度		備考	
			事業名	予算額 (千円)	取組実績	決算見込額 (千円)		評価	事業名		当初予算額 (千円)
①熱中症予防	ホームページ等を活用した熱中症注意情報の提供	健康課	-	-	市広報、CATV、文字放送、デジタルサイネージ、ホームページや機関誌に熱中症予防に関する情報を掲載した。	-	A	熱中症が懸念される時期は、情報提供を行い予防に役立てることができた。今年度も広報、CATV、ホームページ等による熱中症予防に関する情報提供を行う。	-	-	
	熱中症の症状や応急手当、予防方法等の周知・啓発	健康課	-	-	市広報、ホームページによる啓発や各課へ情報発信を行った。また、健康課の窓口やOB会、幼児健診等にてチラシを配布した。	-	A	各種事業にて熱中症に関するリーフレットを配布し予防対策を啓発することができた。今年度も市広報、ホームページによる啓発や各課へ情報発信を行う。また、健康課の窓口やOB会、幼児健診等にてチラシを配布する。	-	-	
②浸水対策の推進	市街地の雨水を速やかに流下させ、また、低地の浸水対策や高潮時の安全を確保するための排水施設の整備	基盤整備課	排水施設整備事業	170,484	排水路の改良整備を行うことにより、浸水被害の軽減・防止を図った。 排水路改良 L=591m	134,321	A	浸水被害の発生が危惧される河川・排水路の改良により、被害の軽減・防止を図った。次年度も同様に河川や排水路の改良により浸水被害の軽減・防止を図っていく。	排水施設整備事業	103,400	
		維持課	道路側溝等改良事業	353,000	老朽化した道路側溝の改良や排水処理のための側溝新設を行った。 施工延長 L=4,262m	328,633	A	老朽化した道路側溝の改良や排水処理のための側溝新設を行ったことにより、排水能力が向上した。次年度以降も継続していく。	道路側溝等改良事業	291,700	
		農林水産課	排水機維持管理経費（機能更新）	15,000	排水機場運転支援システム導入調査業務委託を実施。	7,517	A	排水機の操作における利便性向上、安全性確保のための排水施設整備が課題であり、運転管理のICT化を推進しているところである。鹿海排水機場の運転支援システムの導入へ向けて、事業計画書作成業務委託を実施する。	排水機維持管理経費（機能更新）	72,445	予算額・決算額：排水機維持管理経費（機能更新）事業全体の金額
	河川への雨水流出を少なくするための流出抑制対策の促進	維持課	排水路維持管理経費	109,208	排水機能及び水質が良好な状態に保てるよう調整池等の維持管理を行った。	87,610	A	排水機能及び水質が良好な状態に保てるよう調整池等の維持管理を次年度以降も継続していく。	排水路維持管理経費	137,808	
	都市ポンプ場等の長寿命化	農林水産課	排水機維持管理経費（機能更新）	15,000	・亀池排水機場の事業計画書を修正。 ・県営事業にて、新田排水機場の保全工事及びそれに伴う業務委託を実施。（令和4年度へ繰越）	7,517	B	排水機等の老朽化、施設の機能低下が課題であり、計画的に整備しているところである。引き続き、県営事業にて新田排水機場の保全工事等を実施する。 また、その他の各排水機場についても、対策を実施する。	排水機維持管理経費（機能更新）	72,445	予算額・決算額：排水機維持管理経費（機能更新）全体の金額
		維持課	排水機場維持管理経費（ポンプ場機能更新）	129,000	予防保全の考え方で機能更新を行うことにより効率的かつ効果的な維持管理を行った。	122,290	A	計画的な維持管理を行うために、事後保全方式から予防保全方式に切り替え、地域の治水に対する安全性、信頼性を確保している。次年度以降も補修計画に基づき事業を進めていく。	排水機場維持管理経費（ポンプ場機能更新）	99,000	
		下水道施設管理課	ポンプ場更新事業（補助）	427,961	ストックマネジメント計画に基づき、老朽化した施設更新工事を実施した。（3箇所）	189,469	B	ストックマネジメント計画に基づく、老朽化した施設更新を実施し、適正な維持管理を行っていく。	ポンプ場更新事業（補助）	211,600	
③災害時の避難施設等の整備	災害用トイレやスロープ等の整備等、避難生活施設等の環境整備	防災施設整備課	避難所等整備事業	316,625	・マンホールトイレの整備 8箇所 ・屋内運動場トイレ改修（バリアフリー化）7箇所 ・マンホールトイレ用備蓄物資購入	299,686	A	計画とおり整備を完了した。今後は、マンホールトイレについて、地域住民で組立、運営ができるよう防災訓練時に組立訓練等を行っていただくよう地元まち協働働きかける。	-	-	
	備蓄計画の見直し及び防災備蓄倉庫の整備	防災施設整備課	避難所等整備事業	8,021	・既存備蓄倉庫の機能検証 ・備蓄倉庫の不足解消策の検討 ・支援物資調達・供給体制の検討 ・備蓄計画の更新案の作成	8,021	A	備蓄物資に係る課題の整理を行った。今後は備蓄倉庫や災害時物資拠点が災害時に円滑に使用できるよう、施設整備に向け検討・調整を進める。	-	-	

資料1 第3期伊勢市環境基本計画 施策推進確認シート

基本目標2 資源を大切に作る循環型社会の構築

評価 A:実施できた  
B:概ね実施できた  
C:ほとんど実施できなかった  
D:実施していない

(1) 3Rの推進

施策	主な取組	担当課	令和3年度				令和4年度		備考		
			事業名	予算額 (千円)	取組実績	決算 見込額 (千円)	評価	取り組みの成果や課題、 それらを踏まえた次年度の取組		事業名	当初 予算額 (千円)
①発生抑制 (リデュース)の推進	ごみを出さないライフスタイルの転換の検討	ごみ減量課	MOTTAINAI推進事業	2,197	コロナ禍の影響で、出前講座(自治会、老人会)が開催できなかった。	1,323	D	【成果や課題】 コロナ禍の影響で、開催できなかった。 【次年度の取組】 出前講座として、3Rに関する講座の開催を実施する。	MOTTAINAI推進事業	2,200	
	「食品ロス」削減に関する広報活動の推進	ごみ減量課	MOTTAINAI推進事業	2,197	・食品ロス削減をテーマに小中学生を対象としたMOTTAINAI(もったいない)ポスターコンクールを実施した。 ・市民の食品ロス削減意識を向上するため、10月1日~31日の間、市内のスーパー事業者と「2021すぐ食べるならつれてって!キャンペーン」を実施した。また、キャンペーンにおいて、食品ロスの啓発および食品ロスダイアリーアプリに関する小冊子を配布した。 ・伊勢市社会福祉協議会とファミリーマートと共同で「ファミマフードドライブ」を実施した。 【R3実績】 ・ポスターコンクール応募数 422点 ・食ロスキャンペーン応募数 2,352通	1,323	A	【成果や課題】 ・MOTTAINAI(もったいない)ポスターコンクールの名称が定着してきた。 ・食品ロス削減キャンペーンも3回目を迎え、利用者に定着してきた。 【次年度の取組】 ・食品ロス削減をテーマに小中学生を対象としたMOTTAINAI(もったいない)ポスターコンクールを実施する。 ・市民の食品ロス削減意識を向上するため、10月1日~31日の間、市内のスーパー事業者と「2022すぐ食べるならつれてって!キャンペーン」を実施する。 ・伊勢市社会福祉協議会とファミリーマートと共同で「ファミマフードドライブ」を実施する。	MOTTAINAI推進事業	2,200	
	廃棄食品の飼料化、フードバンク等の食品ループの構築等の検討										
	プラスチックごみの排出抑制のためのマイバッグ、マイボトル等の取組推進	ごみ減量課	MOTTAINAI推進事業	2,197	マイボトル・マイカップ運動を推進していくための仕組みを構築した。また、マイボトル・マイカップ使用に関し市庁内にアンケート調査を実施した。(R3実績:庁内アンケート実施 991人)	1,323	B	【成果や課題】 マイボトル・マイカップ運動を実施していくための方針を策定した。 【次年度の取組】 マイボトル協力店や推進事業者の募集や、引き続きマイボトル・マイカップ使用促進について市民等へ周知啓発を行う。	MOTTAINAI推進事業	2,200	
②再使用(リユース)の推進	リサイクルショップ、フリーマーケット、バザー等の利用促進										
	ぐりんくん制度(未使用に近い状態の粗大ごみ等について、排出者の承諾を得た上で希望者へ無償提供を行う制度)の拡充	ごみ減量課	MOTTAINAI推進事業	2,197	「ドライブスルーdeぐりんくん」として、屋外でリユース家具を展示し、希望者に無償提供を行った。(R3実績:参加者 70名、提供数 51点)	1,323	A	【成果や課題】 保管場所の確保が課題。 【次年度の取組】 環境フェアでの「無料家具リユース」または、「ドライブスルーdeぐりんくん」として、希望者に無償提供を行う。	MOTTAINAI推進事業	2,200	
③再生利用(リサイクル)の推進	生ごみ処理機を利用した生ごみの堆肥化、減量化の支援	ごみ減量課	ごみ減量化容器設置補助金	4,400	生ごみの減量化のため、生ごみ処理機の購入に要する経費の一部を助成した。 ※家庭用:補助率1/2 3万円上限(本体価格2,000円以上を対象) ・処理機 ・処理容器 ※事業所用:補助率1/2 300万円上限 【R3実績】 ・家庭用 62基 1,144,000円 ・事業用 1基 3,000,000円	4,148	A	【成果や課題】 補助申請件数は想定通りであるが、生ごみ処理機普及のため、生ごみ処理機の有用性や補助金制度の周知が課題。 【次年度の取組】 生ごみの減量化のため、生ごみ処理機の購入に要する経費の一部を助成する。 ※家庭用:補助率1/2 3万円上限(本体価格2,000円以上を対象) ・処理機 ・処理容器 ※事業所用:補助率1/2 300万円上限	ごみ減量化容器設置補助金	4,209	
	雑がみの分別や”雑がみ回収袋”の作成方法、雑がみ回収によるメリット等の啓発	ごみ減量課	MOTTAINAI推進事業	2,197	・市内の小学4年生を対象に、夏休みの期間に家庭で雑がみを分別する「雑がみチャレンジ」を実施し、雑がみの分別習慣化を図った。 ・引き続き事業系の雑がみ(禁忌品を含む)を資源化し、重量に応じたトイレトペーパーと交換し公共施設に寄贈する「トイレの紙さま」プロジェクトの推進に取り組んだ。 ・伊勢市HPやSNSを通じて雑がみ分別の啓発を行った。 【R3実績】 ・雑がみチャレンジ!参加校 13校、590人参加、回収量 1,675kg ・トイレの紙さま 回収量 26,296kg	1,323	A	【成果や課題】 雑がみチャレンジに関しては、13校の参加となったが、今後参加校数をどう増やせるかが課題。 【次年度の取組】 ・市内の小学4年生を対象に、夏休みの期間に家庭で雑がみを分別する「雑がみチャレンジ」を実施し、雑がみの分別習慣化を図る。 ・引き続き事業系の雑がみ(禁忌品を含む)を資源化し、重量に応じたトイレトペーパーと交換し公共施設に寄贈する「トイレの紙さま」プロジェクトの推進に取り組む。 ・伊勢市HPやSNSを通じて雑がみ分別の啓発を行う。	MOTTAINAI推進事業	2,200	
	自治会等による集団回収の促進	ごみ減量課	再生資源回収推進事業	5,900	ごみの減量・資源化、市民の意識向上のため、自治会や子供会などの団体が行う廃品回収に対し、回収した資源の量に応じた奨励金を交付した。(R3実績 127団体、3,538,630円)	3,587	A	【成果や課題】 市内で資源回収を行う団体等へは、一定の周知はなされている。 【次年度の取組】 ごみの減量・資源化、市民の意識向上のため、自治会や子供会などの団体が行う廃品回収に対し、回収した資源の量に応じた奨励金を交付する。	再生資源回収推進事業	5,588	



(4) 水循環の確保

施策	主な取組	担当課	令和3年度				取り組みの成果や課題、 それらを踏まえた次年度の取組	令和4年度		備考	
			事業名	予算額 (千円)	取組実績	決算 見込額 (千円)		評価	事業名		当初 予算額 (千円)
①治水・利水 対策の推進	雨水貯留施設（雨水タンク）の設置支援										
	市街地の雨水を速やかに 流下させ、また、低地の 浸水対策や高潮時の安全 を確保するための排水施 設の整備	基盤整備課	排水施設整備事業	170,484	排水路の改良整備を行うことにより、浸水被害の軽減・防止を図った。 排水路改良 L=591m	134,321	A	浸水被害の発生が危惧される河川・排水路の改良により、被害の軽減・防止を図った。次年度も同様に河川や排水路の改良により浸水被害の軽減・防止を図っていく。	排水施設整備事業	103,400	基本目標1-(2)-②の再掲
		維持課	道路側溝等改良事業	353,000	老朽化した道路側溝の改良や排水処理のための側溝新設を行った。	328,633	A	老朽化した道路側溝の改良や排水処理のための側溝新設を行ったことにより、排水能力が向上した。次年度以降も継続していく。	道路側溝等改良事業	291,700	基本目標1-(2)-②の再掲
		農林水産課	排水機維持管理経費 (機能更新)	15,000	排水機場運転支援システム導入調査業務委託を実施。	7,517	A	排水機の操作における利便性向上、安全性確保のための排水施設整備が課題であり、運転管理のICT化を推進しているところである。鹿海排水機場の運転支援システムの導入へ向けて、事業計画書作成業務委託を実施する。	排水機維持管理経費 (機能更新)	72,445	基本目標1-(2)-②の再掲
	河川への雨水流出を少なく するための流出抑制対 策の促進	維持課	排水路維持管理経費	109,208	排水機能及び水質が良好な状態に保てるよう調整池等の維持管理を行った。	87,610	A	排水機能及び水質が良好な状態に保てるよう調整池等の維持管理を次年度以降も継続していく。	排水路維持管理経費	137,808	基本目標1-(2)-②の再掲
	都市ポンプ場等の長寿命 化	農林水産課	排水機維持管理経費 (機能更新)	15,000	・ 亀池排水機場の事業計画書を修正。 ・ 県営事業にて、新田排水機場の保全工事及びそれに伴う業務委託を実施。 令和4年度へ繰越	7,517	B	排水機等の老朽化、施設の機能低下が課題であり、計画的に整備しているところである。引き続き、県営事業にて新田排水機場の保全工事等を実施する。 また、その他の各排水機場についても、対策を実施する。	排水機維持管理経費 (機能更新)	72,445	基本目標1-(2)-②の再掲
		維持課	排水機場維持管理経費 (ポンプ場機能更新)	129,000	予防保全の考え方で機能更新を行うことにより効率的かつ効果的な維持管理を行った。	122,290	A	計画的な維持管理を行うために、事後保全方式から予防保全方式に切り替え、地域の治水に対する安全性、信頼性を確保している。今後も補修計画に基づき事業を進めていく。	排水機場維持管理経費 (ポンプ場機能更新)	99,000	基本目標1-(2)-②の再掲
下水道施設 管理課		ポンプ場更新事業 (補助)	427,961	ストックマネジメント計画に基づき、老朽化した施設更新工事を実施した。	189,469	B	ストックマネジメント計画に基づく、老朽化した施設更新を実施し、適正な維持管理を行っていく。	ポンプ場更新事業 (補助)	211,600	基本目標1-(2)-②の再掲	
②水源対策の 推進	水源地及び配水場にお ける水質検査の実施	上水道課	水源地維持管理事業	6,963	年間84件の水質検査を実施した。	5,657	A	安全で安心できる水道水の供給を行うため、水質検査を実施する。	水源地維持管理事業	6,963	
	農業を営む上で必要な用 水等を確保するための水 源確保	農林水産課	県営事業負担金	51,063	安定した水供給と維持管理の省力化及び生産性向上を図るため、パイプラインの更新整備及び給水栓整備を行う国営関連県営事業に対し負担金を支出した。 【実施地区】 宮川4工区、有爾中・明星地区、田丸地区、小俣地区、宮川左岸地区、城田・下外城田地区	115,773	A	農業を営む上で安定した水供給と維持管理が課題。引き続き、パイプラインの更新整備及び給水栓整備を行う国営関連県営事業に対し負担金を支出する。	県営事業等負担金	90,107	(R4より「県営事業等負担金」に改称)

資料1 第3期伊勢市環境基本計画 施策推進確認シート

基本目標3 豊かな自然と人が共生する社会の形成

(1) 自然環境・公益的機能の保全

評価 A:実施できた  
 B:概ね実施できた  
 C:ほとんど実施できなかった  
 D:実施していない

施策	主な取組	担当課	令和3年度				令和4年度	備考			
			事業名	予算額 (千円)	取組実績	決算 見込額 (千円)			評価		
①水環境の保全	市内公共用水域（河川・海域）の水質調査の実施	環境課	調査事業	2,840	河川・幹線排水路、海域の水質汚濁状態を把握するため、水質調査を行った。 ・河川 調査地点23 回数152 ・幹線排水路 調査地点3 回数12 ・海域 調査地点1 回数4	1,443	A	河川・海域の水質汚濁状態の把握に努めた。引き続き、河川・海域の水質調査を行い、生活排水対策の資料とする。	調査事業	1,425	
	堤防法面の除草等、河川の良好な維持管理	維持課	河川維持補修経費	21,500	河川の良好な維持管理と安全性の確保を図るため堤防法面等の除草及び伐採を行った。	20,951	A	維持管理の結果、未然に河川災害を防止できた。次年度以降も継続していく。	河川維持補修経費	21,500	
	流域関連公共下水道事業の整備推進	下水道建設課	社会資本交付金事業（補助） 社会資本交付金事業（単独）	4,144,225	下水道事業計画区域内の整備を進め、下水道処理人口普及率を56.7%から58.2%へ向上させた。	2,403,815	B	下水道事業計画区域内の整備を進め、下水道処理人口普及率の向上を図る。	社会資本交付金事業（補助） 社会資本交付金事業（単独）	2,462,762	
	合併処理浄化槽の普及促進	環境課	合併処理浄化槽整備事業補助金	62,245	合併処理浄化槽の設置に対して補助金を交付した。交付件数193件	49,995	A	助成件数はほぼ予定どおりであった。次年度も引き続き普及に励み、年間190件を目指し、補助金を交付する。	合併処理浄化槽整備事業補助金	51,000	
	エコクッキング教室等の講習会等の開催	環境課	生活排水対策啓発事業	40	東邦ガス(株)が、新型コロナウイルス感染症の影響でエコ・クッキング教室の実施を中止しており、中止とした。	0	D	新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったことから、新型コロナウイルスの影響下においても実施可能な「家庭での生活排水発生源対策」について、伊勢市環境会議と連携して実施する。	生活排水対策啓発事業	40	
	地区漁業者等による干潟保全活動の支援	農林水産課	干潟保全活動支援事業	338	地元組織により干潟保全活動を実施していたが、年度途中で中止した。	86	B	次年度以降、地元組織が活動を行う予定が無いため、事業廃止を行った。	-	-	
	観光関係団体等と協力した海岸清掃の実施	観光振興課	二見ビーチ活性化事業	550	5月から3月の期間に二見浦海水浴場施設とその周辺の環境や景観を良好な状態に保つため、定期的に清掃活動を実施した。	565	A	前年同様に年間を通じて二見浦海水浴場施設とその周辺の環境や景観を良好な状態に保つため、定期的に清掃活動を行う。	二見ビーチ活性化事業	550	
	水産資源の保護に関する啓発	農林水産課	-	-	潮干狩りの禁止を広報で周知した。	-	A	水産資源の保護が課題であり、引き続き潮干狩りの禁止を広報で周知する。	-	-	
②森林環境の保全	森林がもつ公益的機能を総合的かつ高度に発揮させるための間伐等の適正管理支援	農林水産課	森林経営管理事業	18,123	経営管理の意向調査を実施した。 意向調査：108ha 管理意向のある個所の境界確認を行った。 境界確認：21ha 計画的な運用を図るため残りの金額を森林環境譲与税基金に積立てた。	19,517	A	放置されている森林の適切な管理が課題。新たな地区の経営管理の意向調査実施と前年度経営管理の意向をいただいた箇所の境界確認を実施する。 また前年度の境界確認を基に経営管理集積計画を策定する残りを森林環境譲与税基金に積立て、計画的な運用を図る。	森林経営管理事業	32,946	
	生活環境を守る海岸沿いの防風保安林等、公益的機能が高い森林を保全するための適切かつ効率的な害虫防除の推進	農林水産課	森林整備事業	14,009	防風保安林等暮らしに身近な森林づくりとして松くい虫防除及び松林間伐を行った。 地上散布：6.1ha、樹幹注入：355本、枯松伐倒粉砕：15.3㎡ 松林間伐：383本 また計画的な運用を図るため残りを森林づくり基金に積立てた。	14,534	A	防風保安林としての松林の保全等が課題。防風保安林等暮らしに身近な森林づくりとして松くい虫防除として地上散布、樹幹注入、枯松伐倒粉砕、松林間伐等を行う。 また残りを森林づくり基金に積立て、計画的な運用を図る。	森林整備事業	15,800	
	農村風景や動植物との出会い、山菜等の山の恵み、山並み景観等、公益的機能を有する里地里山の保全・活用活動の支援	農林水産課	環境保全林管理経費	17,218	三郷山・音無山・絆の森・横輪環境保全林において、清掃、草刈り、枝打ち等を行った。 また施設の一部修繕工事を行った。	10,728	A	公益的機能を有する山の適切な保全・活用が課題。三郷山・音無山・絆の森・横輪環境保全林において、清掃、草刈り、枝打ち等を行う。 また、老朽化の進んでいる施設の修繕工事を行う。	環境保全林管理経費	9,395	
	公共施設への木材利用の推進	農林水産課	森林経営管理事業	7,302	森林環境譲与税を活用し、地域材を利用し大淀漁港海岸の東屋を木造で設置した。	6,350	A	地域材を活用した公共施設への木材利用の推進が課題。みえ森と緑の県民税を活用し、県産材を利用した公共建築物等の木造、木質化を推進する。	二見地区統合園整備事業 (担当課：保育課)	10,000	

施策	主な取組	担当課	令和3年度				取り組みの成果や課題、 それらを踏まえた次年度の取組	令和4年度		備考
			事業名	予算額 (千円)	取組実績	決算 見込額 (千円)		評価	事業名	
③農地環境の 保全	担い手農家への農地集積 等による遊休農地の解消	農林水産課	遊休農地活用事業	1,000	遊休農地の解消に係る費用の一部負担を行った。 交付件数1件、解消面積19a	190	A	耕作放棄地化した農地は、土地が営農に不向きな条件である場合が多いが、効率的な農作業の促進を図る観点から、引き続き認定農業者や地域の担い手に対して事業の周知を行っていく。	遊休農地活用事業	800
	景観植物の植栽等による 遊休農地の利用促進									
	地産地消の推進	農林水産課	地産地消推進事業	2,203	地産地消の店認定制度の展開、学校給食への市内産農水産物の活用に係る支援を行った。 なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地産地消の認定店交流会は実施しなかった。	1,278	B	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施できなかった取り組みもあったが、令和4年度においては、情勢に応じた取組を進めていく。	地産地消推進事業	1,722
	市内産農産物のブランド 化に向けた取組の支援	農林水産課	農産物ブランド化 推進事業	1,883	ブランド化を推進しようとする取り組みに対して支援を行うための補助金活用について、関係機関等と調整は行ったが実施にまでは至らなかった。 なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、県外等へのPR活動は実施しなかった。	0	C	令和3年度については補助金活用の実績が無かったが、令和4年度の活用に向けて関係機関等と調整を図り効果的な補助金活用を推進していく。	農産物ブランド化 推進事業	1,841
	「伊勢市鳥獣被害防止計画」 に基づく獣害に強い 集落づくりの体制整備支 援	農林水産課	獣害防止事業	10,588	伊勢市鳥獣被害防止計画に基づく、個体数調整、被害防除、生息環境調査等の被害防止対策を総合的に実施した。また、地域が行っている捕獲活動や追い払い活動を支援し、地域主体の取り組みを推進した。	9,627	A	令和3年度については、国の事業を活用し獣害防止柵を設置や捕獲活動に対する支援を行ってきたが、令和4年度については、企業や大学と連携し効果的な獣害対策を行うための実証実験を行っていく。	獣害防止事業	10,895

(2) 自然との共生

施策	主な取組	担当課	令和3年度				取り組みの成果や課題、 それらを踏まえた次年度の取組	令和4年度		備考
			事業名	予算額 (千円)	取組実績	決算 見込額 (千円)		評価	事業名	
①生物多様性の 保全	生態系に配慮した河川等 の整備	基盤整備課	河川災害復旧事業	62,962	護岸ブロックに環境保全型を使用し、植生の早期復元を図った。 L=274m	54,777	A	環境保全型の護岸ブロックを使用した災害復旧工事により、植生の早期復元を図った。今後も災害復旧が発生した場合には、河川における生物の生息・生育・繁殖環境等を目的として環境保全型の護岸ブロックを使用する。	河川災害復旧事業	3
	外来生物による被害予防 に関する情報提供・啓発	農林水産課	水田等環境改善事業	7,000	水稲の生産現場において被害を及ぼすスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の防除に要する費用に対して補助金を交付した。 交付件数56件	1,720	A	関係機関との検証においては被害は減少傾向にあるとの結果ではあるが、令和4年度についても、様々な手法で補助金の周知を行い補助金活用および被害の軽減を図っていく。	水田等環境改善事業	3,000
		環境課	衛生一般経費	45	広報いせ及びいきもの調査にて生物多様性の保全及び外来生物に関する情報提供・啓発を行った。 広報いせ7月1日号 広報いせ11月1日号 いきもの調査実施回数 9回	40	B	広報いせの記事や、いきもの調査の結果の広報を通じて、生物多様性の保全の重要性の啓発や外来生物に関する情報提供を実施できた。 引き続き、広報いせなどにより情報提供・啓発を行う。	衛生一般経費	35
	動植物の生息・生育状況 に関する現況把握	環境課	-	-	市内の動植物の生息状況を把握することを目的として、採集、写真撮影により種の同定を行い、活動記録をホームページに掲載した。 いきもの調査実施回数 9回	-	A	いきもの調査を通じて、身近な動植物の生息・生育状況等の環境調査を行うことができた。 引き続き、いきもの調査を実施しながら、機会を捉えて有識者・企業との情報共有を行っていく。	-	-
	生物多様性保全に関する 学習機会等の提供	環境課	-	-	事業者との連携により出前講座を予定したが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。	-	D	新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったことから、新型コロナウイルスの影響下においても実施可能な「生物多様性保全に関する学習機会の提供」を事業者・伊勢市環境会議と連携して実施する。	-	-
②自然とのふ れあいの増進	水生生物による水質調査 等の自然とふれあえる野 外環境学習の開催	環境課	-	-	小学校への通知で参加者を募ったが、申込者がいなかったため中止した。	-	D	申込者がなかったため、親子で参加可能にするなどの工夫について伊勢市環境会議と協議しながら、自然とふれあえる野外環境学習を小学生を対象として実施する。	-	-
	自然とふれあえる護岸・ 親水公園・里山等を整備・ 充実									
	勢田川七夕大そうじ等の 清掃・美化活動の開催	環境課	生活排水対策啓発事業	220	勢田川七夕大そうじを開催し、沿岸自治会とともに勢田川沿岸を清掃した。 また、少人数での清掃活動支援のためにボランティア清掃ゴミ袋を作成した。 参加者数 568人 参加自治会数 11自治会	272	A	勢田川七夕大そうじを開催し、沿岸自治会とともに清掃活動を実施することができた。 引き続き勢田川七夕大そうじを開催するとともに、ボランティア清掃ゴミ袋について少人数での清掃活動に活用いただくことで清掃・美化活動の活発化につなげていく。	生活排水対策啓発事業	180
	伊勢志摩国立公園の観光 資源としての利活用	観光振興課	観光一般経費(観光 振興課分)	1,248	負担金を拠出する国立公園関係の団体を通して、自然観察会や体験型アクティビティの一部を除き実施するとともに、それに係る情報発信を各市町と連携して行った。	1,233	A	引き続き、負担金を拠出する国立公園関係の団体を通して、自然観察会や体験型アクティビティの実施、またそれに係る情報発信を各市町と連携して行う。	観光一般経費(観光 振興課分)	1,248

資料1 第3期伊勢市環境基本計画 施策推進確認シート

基本目標4 歴史・文化の薫る、快適に暮らせるまちの形成

評価 A:実施できた  
B:概ね実施できた  
C:ほとんど実施できなかった  
D:実施していない

(1) 快適で美しい住環境の保全

施策	主な取組	担当課	令和3年度				取り組みの成果や課題、それらを踏まえた次年度の取組	令和4年度		備考	
			事業名	予算額 (千円)	取組実績	決算見込額 (千円)		評価	事業名		当初予算額 (千円)
①住環境の向上	事業活動に伴う騒音等の適正管理	環境課	-	-	騒音規制法等に基づき騒音苦情等に対して適切な指導を行った。 騒音36件、振動0件、悪臭26件	-	A	騒音苦情等に対して適切に指導を行うことができた。引き続き、騒音規制法等に基づき基準値を超える騒音等があれば適切な調査・指導を行っていく。	-	-	
	騒音等に関する環境基準に基づく指導・啓発	環境課	調査事業	1,419	騒音規制法等に基づく法令遵守等の指導を行った。騒音・振動・悪臭等について調査し現状把握を行った。 調査地点 騒音6、振動1、臭気1	2,608	A	騒音規制法等に基づく届出を受付し、適切に指導を行うことができた。引き続き届け出の受理を行うとともに、伊勢市内の自動車騒音や環境騒音・振動、悪臭の環境測定を実施し、施策の基礎資料としていく。	調査事業	1,759	
	電気自動車等の普及促進	環境課	-	-	商業施設で実施したパネル展において電気自動車のPRを図った。	-	B	脱炭素社会の実現が社会的な課題となっていることから、自治体として電気自動車の導入を進めるとともに、様々なイベント等を通じて電気自動車のPRを進める。	-	-	基本目標1-(1)-②の再掲
	「伊勢市空家等対策計画」に基づく空家等に関する対策の推進	住宅政策課	空家等対策事業	7,646	空家バンク制度を通じて14件の契約が成約したほか、木造で耐震性のない空家103件、老朽化して危険な空家4件の除却について補助金を交付した。また、第2期伊勢市空家等対策計画を策定した。	5,085	A	管理されていない空家の抑制が課題。第2期伊勢市空家等対策計画に沿って、空家バンク等の各種制度も活用しながら、空家所有者等に適正な管理を求めていく。	空家等対策事業	13,894	
②美しく潤いのある空間づくり	「伊勢市ポイ捨て及び路上喫煙の防止に関する条例」に基づく空き缶やたばこの吸い殻のポイ捨て防止対策等の快適な環境づくりの実施	ごみ減量課	きれいなまちづくり推進事業	938	・路上喫煙パトロール・啓発活動の実施 ・伊勢市路上喫煙対策審議会【R3実績】 ・審議会 令和4年1月実施 ・パトロール(ポイ捨て本数) 区域内:841本、区域外:745本	415	A	【成果や課題】伊勢市駅前喫煙所の移設先 【次年度の取組】 ・路上喫煙パトロール・啓発活動の実施 ・伊勢市路上喫煙対策審議会	きれいなまちづくり推進事業	620	
	看板の設置等による不法投棄の防止	ごみ減量課	不法投棄防止対策推進事業	769	不法投棄防止パトロールを実施した。 【R3実績】 ・家電4品目 65台 ・タイヤ 100本 ・消火器 69本	440	A	【成果や課題】不法投棄された廃棄物の処分先 【次年度の取組】不法投棄防止パトロールの実施	不法投棄防止対策推進事業	669	
	除草やごみ拾い等の環境美化活動の促進	環境課	生活排水対策啓発事業	220	少人数での清掃活動支援のためにボランティア清掃ゴミ袋を作成した。	248	A	引き続き、ボランティア清掃ゴミ袋について少人数での清掃活動に活用いただくことで清掃・美化活動の活発化につなげていく。	生活排水対策啓発事業	180	
	ペットの飼育マナーの啓発	環境課	狂犬病予防事業	1,529	狂犬病予防注射案内時および動物愛護週間時の広報いせを活用したペットの飼い方マナーを啓発した。 広報いせ4月1日号 広報いせ9月15日号	862	A	広報いせを活用し、ペットの飼い方マナーを啓発することができた。引き続き、狂犬病予防注射案内時および動物愛護週間時に広報いせを活用しペットの飼い方マナーを啓発していく。	狂犬病予防事業	1,419	
	犬猫の不妊手術の支援	環境課	犬猫不妊手術費等補助金	2,450	犬オス103頭、犬メス119頭、猫オス262匹、猫メス321匹、合計805頭・匹の飼い主に対し助成金を交付した。	2,564	A	飼い犬・飼い猫の適正な飼育を図ることができた。課題として、飼い主のいない猫の問題があることから、市内におけるTNR活動(飼い主のいない猫を捕まえて、手術をし、元の場所に戻す活動)の拡充を図る。また引き続き、犬猫不妊去勢手術を行った飼い主に助成金を交付する。	犬猫不妊手術費等補助金	2,590	
	公園緑地の適切な維持管理	維持課	都市施設維持管理経費(維持課)	167,075	公園緑地を適切に維持管理するため、修繕、清掃、除草、剪定、消毒等を行った。	147,712	A	維持管理の結果、未然に事故を防止できた。次年度以降も継続していく。	都市施設維持管理経費(維持課)	162,385	
	放置自転車等の撤去・処分等の対策の実施	環境課	衛生一般費	88	公共の場所に自動車が放置されなかったため、撤去等実施しなかった。	0	D	令和3年度は実績はなかった。引き続き、公共の場所に放置された放置自動車に関し、警告・移動・撤去等を行う。	衛生一般費	44	
		交通政策課	駐輪場管理事業	10,898	放置禁止区域、駐輪場に放置された自転車等301台を撤去し、354台を処分した。	9,721	A	放置自転車の撤去、処分等により駐輪場の利用環境を改善した。現在の利用環境を維持していくため、次年度以降も継続して行っていく。	駐輪場管理事業	10,866	
	公共トイレの整備等、快適な観光環境の整備推進	維持課	都市施設維持管理経費(維持課)	34,209	公共トイレを適切に維持管理するため、修繕、清掃を行った。	36,621	A	公共トイレの適切な維持管理により、快適な環境整備を行った。次年度以降も継続していく。	都市施設維持管理経費(維持課)	33,256	
	③バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進	公共空間・公共施設のバリアフリー化設備等の整備推進	基盤整備課	中心市街地活性化整備事業(都市構造補助金)	3,486	歩道に点字ブロックを整備し、視覚障がい者も利用し易い環境を整えた。 A=78㎡	2,774	A	点字ブロックを整備し、住環境の向上を図った。		
		基盤整備課	公園整備事業	54,171	ユニバーサルデザインに配慮した遊具を新設した。 N=1基	31,251	A	ユニバーサルデザインに配慮し、子どもの遊び場やコミュニティ活動等の場として公園整備を行った。次年度は、地域住民や来訪者が集える交流拠点となる公園に遊具の増設やユニバーサルデザインに配慮した公園整備を図っていく。	集まれこどもたち公園整備事業	69,530	



資料1 第3期伊勢市環境基本計画 施策推進確認シート

基本目標5 環境保全に取り組むための基盤づくり

(1)環境教育・環境学習の充実

評価 A:実施できた  
B:概ね実施できた  
C:ほとんど実施できなかった  
D:実施していない

施策	主な取組	担当課	令和3年度				令和4年度	備考			
			事業名	予算額 (千円)	取組実績	決算 見込額 (千円)			評価		
①環境教育・学習の充実	環境問題やその対策について考える機会の充実	環境課	環境フェア等開催事業	1,234	伊勢市の環境問題や対策について啓発・情報発信等を行うため、環境フェアの開催を予定したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。	0	D	開催方法を工夫することで、コロナ禍でも実施可能な環境フェアを開催し、伊勢市の環境問題や対策について啓発・情報発信等を行う。	環境フェア等開催事業	1,183	
		ごみ減量課	きれいなまちづくり推進事業	938	・食品ロスの削減、3Rの推進をテーマに、MOTTAINAIポスターコンクールを実施した。 ・雑がみチャレンジ参加校ハトイレットペーパー寄贈した。 【R3実績】 ・ポスターコンクール応募数 422点	415	A	【成果や課題】 ・MOTTAINAI(もったいない)ポスターコンクールの名称が定着してきた。 【次年度の取組】 ・食品ロスの削減、3Rの推進をテーマに、MOTTAINAIポスターコンクールを実施する。 ・雑がみチャレンジ参加校ハトイレットペーパーを寄贈する。	きれいなまちづくり推進事業	620	ポスターコンクールについては、基本目標2-(1)-①の再掲
		学校教育課	-	-	・全小中学校が学校環境デー(6月5日)を中心に学校や地域の状況に応じた特色ある環境教育・環境保全に関する取組を実施。 ・環境集会3校、児童会を中心とした取組等の実施32校 ・省エネルギーの取組(節電・節水の推奨、緑化活動)32校 ・リサイクル活動のためのアルミ缶回収、給食牛乳パック回収の実施32校 ・学校、地域ごとの浜清掃、河川清掃の実施11校	-	B	・学校環境デー(6/5)をはじめ、環境保全の取組を継続して推進するとともに、各学校の取組を学校だより、学級通信等を通じた発信を継続していきたい。 ・環境課と協力して、環境教育と連携できる企業を開拓するとともに、現在連携している企業を有効に活用できるよう学校に働きかけていく。また、オンライン開催が可能な取組を提案していく。	-	-	
自然観察等の体験学習の機会の充実	学校教育課	豊かな心を育む体験交流活動推進事業	4,542	・「きらり自然体験活動推進事業」を小学校3校で実施し学校独自の自然体験活動を推進。 ・「ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム」小学校3校で実施し環境省やみえ森づくりサポートセンターと連携して横輪川での生き物探しやラブリバー公園に出かけ植物について詳しく学ぶ等、自然や環境を大切にすることを育む取組を行った。 ・汁谷川の観察小学校3校で実施。	2,919	A	・新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、児童生徒が実際に体験する活動を増やしていきたい。 ・より有効的なICTの活用を進めていきたい。	豊かな心を育む体験交流活動推進事業	4,542		
出前講座による環境学習の推進	環境課	環境教育推進事業	300	持続可能な社会づくりに貢献する人材育成のため、大学・企業と連携し、環境教育の出前講座等を実施した。 小学校2校	300	C	新型コロナウイルス感染症の影響により実施回数が伸びなかった。小中学校に対して積極的な働きかけを行いながら、民間事業者・大学等と連携し、小中学生を対象に出前講座等を実施する。	環境教育推進事業	300		
		ごみ減量課	きれいなまちづくり推進事業	938	・市内の幼稚園・保育園を対象に、紙芝居や劇によるごみの分別・3Rの推進の環境出前講座を実施した。 (R3実績:12回)	415	A	【成果や課題】 コロナ禍の影響で、開催の回数が減少した。 【次年度の取組】 市内の幼稚園・保育園を対象に、紙芝居や劇によるごみの分別・3Rの推進の環境出前講座を実施する。	きれいなまちづくり推進事業	620	
		ごみ減量課	MOTTAINAI推進事業	2,197	小学校の社会学習として、ごみの分別・3Rの推進の説明やパッカー車による収集の体験等を行う出前授業を実施した。 (R3実績:7校)	1,323	A	【成果や課題】 コロナ禍の影響で、開催の回数が減少した。 【次年度の取組】 小学校の社会学習として、ごみの分別・3Rの推進の説明やパッカー車による収集の体験等を行う出前授業を実施する。	MOTTAINAI推進事業	2,200	基本目標2-(3)-①の再掲
市HPや広報いせを活用した情報発信の強化	ごみ減量課	MOTTAINAI推進事業	2,197	・市HP・広報いせやSNS等(Facebook, Instagram)を活用し、積極的な情報発信を行った。 ・LINEの伊勢市公式アカウントで祝日のごみの回収情報や、食品ロスキャンペーン等の情報を配信した。 【R3実績】 ・フォロワー数(FB) 103人 ・LINEアプリ登録数 15,177人	1,323	A	【成果や課題】 LINE伊勢市公式アカウント登録者の増加に貢献した。 【次年度の取組】 ・市HP・広報いせやSNS等(Facebook, Instagram)を活用し、積極的な情報発信を行う。 ・LINEの伊勢市公式アカウントで祝日のごみの回収情報や、食品ロスキャンペーン等の情報を配信する。	MOTTAINAI推進事業	2,200		

